

絆を結ぶ庭

田口 幸子 福島県須賀川市 六十八歳

家族の為に働きづくめの夫。

家族と一緒に夕食を共にしたり、子どもと遊んであげるといふ時間は、あまりとれなかったように思う。

まさに一家の働き手で大黒柱的な存在だ。

朝早く出掛ける時「つぼみだったトルコキキョウ咲いたな」と、ぼつりと言う。二人で少しずつ手をかけて楽しみながら作った庭だ。

さざん花、白木蓮、ムクゲ、ばら、ボタン、と季節ごとに癒し、我が家の日常を長年、見守ってくれた。

今年はいつもの年と違い酷暑だったが、紫紺のクレマチスは、きん木せいの木に寄り添って見事に咲き、元気づけられた。

一日に何回となく庭にたたずみ、庭と話し、このひとときが当り前ではなくありがたく思う。

ぬれ縁に腰かけ、初秋の風にゆれている仙台萩をながめている夫の後姿に「長い間お仕事おつかれさま」と感謝する。

庭は家族の絆を結んでくれる。